

インフォメーション・コーナー

会 告

○2020年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第1報）  2020年8月25～28日開催	122
○消費税率の改定に伴う価格について（再）	122
○書籍購入時の「送料」および「振込手数料」のご負担について（再）	123
○会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について（再）	123
○新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊について（再）	123
○学生会員入会時の特典について～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～	123
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	124
○「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について（再）	124
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	124
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	124
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について	125
○学会定期刊行物の農林水産研究情報総合センター事業「AGROPEDIA」掲載について（再）	127
○農地保全研究部会第40回研究集会および現地研修会の開催について（第4報）  12月17～18日開催	127
農業農村工学会論文集内容紹介	129
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」内容紹介	130
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	135
受入れ図書	137
学会記事	137

第88巻第1号予定

新年のごあいさつ：山路永司

展望：桐 博英

小特集：農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用

報文：メタン発酵消化液の輸送・散布計画支援モデルの開発と機能：山岡 賢ほか

報文：農業水路の生態系を測る「魚の棲みやすさ評価プログラム」：渡部恵司ほか

報文：不十分な時系列データを用いた ANN モデル予測の改善方法：木村延明ほか

報文：九頭竜川下流地区におけるクラウド型水管理に関する一考察：倉田 進ほか

報文：水管理ソフトウェアの使い勝手に関する利用者の評価：新村麻実ほか

報文：タブレットを用いた農地一筆調査アプリの改良と普及に向けた課題：芦田敏文ほか

報文：ため池の自主防災・減災のためのスマートフォンを活用したため池点検管理システム：重岡 徹ほか

報文：放射線教育のための子供向けデジタル絵本アプリケーション：廣住豊一ほか

報文：Google Earth Engine によるスーダン・洪水灌漑地区の土地利用解析：藤原洋一ほか

技術リポート

北海道支部：開水路を対象とした機能診断クラウドシステムの開発事例：舟田洋史ほか

東北支部：宮城県によるマラウイ共和国への国際協力活動の実践事例：菅野将央ほか

関東支部：コンテナバックを用いた現場練コンクリートでのため池改修：青柳義雄

京都支部：度重なる豪雨災害を受けてのため池改修：中森 司ほか

中国四国支部：ALW 形ダクタイル鋳鉄管の使用上の要点とコスト削減効果：福光隆二ほか

九州沖縄支部：干拓地潮遊池内における排水機場造成盛土の軟弱地盤対策：高田寛行ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2019年12月7日	応用水理研究部会	令和元年度講演会	—	名古屋市	87巻9号
2019年12月17, 18日	農地保全研究部会	第40回研究集会・現地研修会	Ⓟ 亜熱帯島嶼域における農地保全と水環境の保全	石垣市	87巻9,10,11,12号
2019年12月4日	北海道支部	令和元年度講習会	—	札幌市	87巻10号
2020年8月25~28日	大会運営委員会	2020年度農業農村工学会大会講演会	Ⓟ —	鹿児島市	87巻12号

2020年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2020年度（第69回）農業農村工学会大会講演会は、鹿児島大学農学部において開催を予定しています。大会講演会への投稿、参加申込みはWebからになります。投稿要領、参加申込み方法など、詳細は続報でお知らせいたします。

1. 開催期日 2020年8月25日（火）～28日（金）
講演会：2020年8月25日（火）～27日（木）

交流会：2020年8月25日（火）

現地研修会：2020年8月28日（金）

2. 会場

開会式、講演会、交流会：

鹿児島大学農学部農・獣医共通棟および
ジェイドガーデンパレス

消費税率の改定に伴う価格について（再）

農業農村工学会では2019年4月から外税表示に変更しておりますが、「本体価格+税」では分かりにくいとのご意見がありましたので、消費税率10%改定後の税込価格をご案内いたします。

なお、別途送料等のご負担がございますので、詳細は以下の案内をご確認ください。

●定期行物		税込価格
学会誌	1冊	1,226円
論文集	会員年間購読料	
	名誉、正会員	8,327円
	学生会員	4,400円
	非会員年間購読料	16,654円
PWE誌	年間購読料	
	名誉、正会員	9,900円
	学生会員	4,950円
●出版物の販売価格		
図書は、消費税率を10%とした販価。		
●別刷・その他の取扱い		税込価格
学会誌	超過ページ1ページ	11,000円

別刷1部	84円
別刷表紙1編	3,240円
論文集 掲載料	
研究論文、報文、展望	33,000円
研究ノート	22,000円
筆頭者未購読加算	5,500円
筆頭者非会員加算	11,000円
J-STAGE 早期公開	4,400円
超過ページ1ページ	16,500円
冊子体カラー印刷1ページ	101,200円
●技術者継続教育機構（CPD）	
CPD 登録料（個人登録者の登録初年度のみ）	1,048円
CPD 個人年間利用料 CPD のみ	4,191円
学生会員	2,619円
CPD 法人年間利用料 A 区分	523,810円
B 区分	314,286円
C 区分	104,762円
CPD 認定プログラム申請料（1研修）D 区分	31,429円
CPD 取得証明書代金（1通）	1,048円

書籍購入時の「送料」および「振込手数料」のご負担について（再）

宅配便や郵便の料金値上げに伴い、従来学会負担としていた以下の「送料」および「振込手数料」について、2018年8月1日からご購入者の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

・購入図書1冊につき
送料200円（600円を上限とする）
ただし、代金引換の場合は送料の実費を負担いただきます。

会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について（再）

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、2019年4月1日からすべての「振込手数料」をご送金者（会員様等）の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

【主な対象となる振込手数料】

- ① 会費
- ② CPDに関わる費用

新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊について（再）

農業農村工学会では、創立90周年の記念事業として、「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」を2019年8月27日に出版いたしました。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,700円+税	4,500円+税

図書の購入方法

I. 個人・法人の場合（賛助会員を除く）

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または代金引換をご利用ください。

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。
振込口座番号：00160-8-47993 加入者名：公益社団

法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。
- ③ 代金引換：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailかFAXでお送りください。別途、代引手数料と送料の実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書をE-mailかFAXでお送りください。

III. 送料

1冊200円、2冊400円、3冊以上600円

問合せ先（公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

学生会員入会時の特典について

～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～

農業農村工学会では、将来を担う若い方達が早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、学生会員入会特典を設けております。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック+用語事典+初年度会費）

- 学部生 17,000円（15,750円）
- 大学院生 19,500円（16,750円）

②必携3点セット

（必携+用語事典+初年度会費）

- 学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット

（用語事典+初年度会費）

- 学部生 5,000円（3,750円）
- 大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降（半期）入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを後日提供する予定です。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック
必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）
用語事典：改訂6版 農業農村工学標準用語事典

問合せ先（公社）農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について (再)

農業農村工学会技術者継続教育機構では、技術者自身が CPD 登録期間中の「認定ポイント」、「取得ポイント」、「過年度の研鑽履歴のトレンドをグラフ化した情報」などを確認し、目指す専門分野の技術力向上や資格取得に向けて効率よく研鑽ができるよう、2019年3月18日から「CPD 技術者サポート票」

(Excel ファイル) の無料ダウンロードサービスを開始しました。ご利用手順などについては当機構ホームページの「お知らせ一覧」をご参照ください。

http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD_engineersupport_190320.pdf

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信 (事前に Web 利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌12号掲載の問題は1月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録

(正解数6問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。)

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております !

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 88 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第 88 巻第 1 号 農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用 (仮)	終了
2 号 東日本大震災からの復旧・復興 (仮)	終了
3 号 新規就農者の可能性とそのため課題や取組み (仮)	終了
4 号 農業農村工学分野における JABEE 認定プログラムの持続可能性と課題 (仮)	終了
5 号 Society 5.0 に向かう農業農村工学 (仮)	終了
6 号 農業水利施設の補修工法選定上の課題 (仮)	12 月 10 日
7 号 大会特集号 (九州沖縄支部)	公募なし
8 号 「多様な主体が住み続けられる農村」の振興 (仮)	3 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 88 巻第 6 号テーマ「農業水利施設の補修工法選定上の課題」(仮)

農業水利施設に対してストックマネジメントの導入が鋭意進められてきています。特に重要となるのが、営々と築き上げられてきた各種農業水利ストックの長寿命化であり、縮小するわが国の社会・経済状況に応じた適切な維持管理をもとに、良いものをできるだけ長く利用する、というコンセプトを実現するために必要となります。

長寿命化を支える対策技術のひとつに構造物に対する補修工法があります。農業水利施設の特徴を反映した各種基準、品質規格やマニュアルの整備がひととおり完了し、これらを用いた適用事例も増えました。一方で、想定よりも早く再劣化が生じる事例や、その結果再度の補修が必要になった事例なども散見されます。この原因としては、選定した補修材料や補修工法と、施工条件や供用環境条件などの適用性に起因するものが多

いと考えられます。しかし、こういった事例はあまり多く開示されることはありません。

工学が実学である以上、失敗をどれだけ活かし、学ぶことができるか、にかかっているとんでも過言ではありません。失敗を繰り返さないためには、予期せぬ結果に至った原因を究明し活かすことにこそ、学術の発展があります。

上の視点に立ち、本小特集では、単なる補修事例の報告でなく、対策工法への取組みから得られた知見や技術的課題を共有すること、基準やマニュアル等の改善のポイント・方針の提案などを、技術者・研究者・行政などのさまざまな立場からご紹介いただくことを目的とします。学会誌「水土の知」掲載の報文として広く皆様から原稿を募集いたします。

第 88 巻第 8 号テーマ「『多様な主体が住み続けられる農村』の振興」(仮)

多様な主体が住み続けられる農村社会の構築が求められています。そのために一つには、農村に住むための基礎的条件、さらに、住みたくなる条件の整備を進めていくことが必要です。あと一つには、地域資源を適切に保全管理しながら、同時に持続可能な形で最大限活用し、農業・農村の多様性を活かした農村振興を図ることが必要です(食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会の第 1 回(令和元年 6 月 24 日)の配付資料「農業農村整備の新たなフロンティア—新しい時代が到来する中での農業農村整備の課題整理—」)。

具体的には、たとえば「条件不利地域における多様な主体が

連携した地域づくり」として、中山間地域における特産品の産地形成や、営農体制の確立と企業誘致などが挙げられます。また、「担い手以外の者が引き続き住み続けるための方策」として、集落営農による全員参加型の地域農業なども挙げられます(平成 30 年度水土文化研究部会研究会、石井克欣農林水産省農村振興局計画調整室長資料)。

本小特集では、「多様な主体が住み続けられる農村」の振興に関する事例を通して今後を展望する報文を広く会員の皆様から募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機

関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンsoonアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター（IF）は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（19名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ **Associate Editors-in-Chief**
Dr. Seong-Joon Kim
Konkuk University, Korea
Dr. Chen-Wuing Liu
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ **Editors** 11カ国から19名
- ・ **Editorial Advisors** 29名
- ・ **Chief Managing Editor**
Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
・ **Managing Editors**

Dr. Eunmi Hong

Kangwon National University, Korea

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局（2018年7月から2020年6月まで）

・ **Dr. Kimihito NAKAMURA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回（オンラインジャーナル）

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員（院生含む）4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

学会定期刊行物の農林水産研究情報総合センター事業「AGROPEDIA」掲載について（再）

学会誌企画・編集委員会 論文集企画・編集委員会

農業農村工学会誌、農業農村工学会論文集は、(独)科学技術振興機構のJ-STAGEで報文等を公開しておりますが(学会誌、論文集ともに掲載から1年後に公開。学会誌第80巻以降は作業中)、農林水産研究情報総合センターから掲載依頼を受け、新たに同センターポータルサイト「AGROPEDIA」に報文等を掲載することといたしました。

この件に関しましてご不明の点がありましたら、当学会事務局にE-mailまたはFAXでお申し出ください。

なお、2019年12月27日(金)までにご連絡がない場合は承諾いただけたこととさせていただきます。

●対象誌

農業農村工学会誌 第81巻第10号～

農業農村工学会論文集 第287号～

なお、学会誌、論文集に掲載した年度末から1年後に「AGROPEDIA」に掲載されるように手続きをいたします。

問合せ先 農業農村工学会事務局

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

E-mail : suido@jsidre.or.jp

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

農地保全研究部会第40回研究集会および現地研修会の開催について（第4報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。本年度は「亜熱帯島嶼域における農地保全と水環境の保全」をテーマとして、亜熱帯島嶼地域の農村農地の整備・保全と水環境の保全等の取り組み事例紹介や学術報告と討論を通じ、参加者の知見を広げ、今後の農村農地の整備・保全と水環境の保全に係る教育、研究、行政施策等の展開につながることを期待して、講演・総合討論を行います。

1. 主 催 農業農村工学会農地保全研究部会
2. 後 援 (予定) 内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、水士里ネットおきなわ、琉球大学

3. 日 時

- (1) 研究集会 令和元年12月17日(火) 13:00～17:00
- (2) 情報交換会 令和元年12月17日(火) 18:00～20:30
- (3) 現地研修会 令和元年12月18日(水) 9:00～15:00

4. 場 所

- (1) 研究集会：沖縄県八重山合同庁舎講堂(石垣市字真栄里438-1)
- (2) 情報交換会：うりずん(石垣市美崎町11)
- (3) 現地研修会：国営かんがい排水事業石垣島地区エリア(石垣市)

5. 研究集会テーマ

亜熱帯島嶼域における農地保全と水環境の保全

6. 研究集会プログラム(案)

- 12:30～13:00 受付
- 13:00～13:10 開会挨拶
農地保全研究部会長 中野拓治
- 13:10～13:20 開催局挨拶
内閣府沖縄総合事務局農村振興課長 濱井和博

○基調講演

13:20～13:55

農地保全と水環境の保全に資する赤土流出防止対策

農林水産省農業用水対策室長 山田美紀

13:55～14:30

環境条件を勘案した土地の整備と管理—これからの農地保全—

琉球大学農学部教授 中村真也

○一般講演

14:30～14:55

沖縄における赤土流出防止に向けた取り組み

宇都宮大学農学部准教授 大澤和敏

日本工営(株)沖縄支店 富坂峰人

石西礁湖サンゴ礁基金 干川 明

14:55～15:20

北部九州豪雨における農地災害の復旧工法について

NTC コンサルタンツ(株)九州支社技術部次長

渡邊 亮

15:20～15:30 休憩

15:30～16:50 総合討論

コーディネーター：琉球大学名誉教授 宜保清一

パネリスト：農林水産省農業用水対策室長 山田美紀

琉球大学農学部教授 中村真也

沖縄県村づくり計画課長 仲村 哲

宇都宮大学農学部准教授 大澤和敏

NTC コンサルタンツ(株)九州支社技術部

次長 渡邊 亮

司会兼パネリスト：琉球大学農学部客員教授 中野拓治

16:50～17:00 閉会挨拶

農地保全研究部会副部会長(東京農業大学教授)

藤川智紀

7. 現地研修会 (案)

- 9:00 石垣市民会館前発
 9:15~9:45 バンナ展望台
 10:00~10:20 県営新川第2地区 (湛水防止対策)
 10:30~10:50 石垣市赤土流出防止対策
 11:15~12:00 川平湾 (赤土重点監視区域)
 12:15~13:15 ポーザおぼさんの食卓 (昼食)
 13:30~14:10 底原ダム・於茂登導水路 (国営かんがい排水事業)
 14:25~14:45 県営星野地区 (農地保全事業)
 15:00 新石垣空港着

8. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、(株)日本旅行沖縄を通じて行います。農業農村工学会ホームページ内の農地保全研究部会の「農地保全研究部会第40回研究集会・現地研修会の開催について」に

アクセスし、(株)日本旅行沖縄研究集会申込み専用サイト (<https://va.apollon.nta.co.jp/nouchi40>) からお申込みください。

- (2) 申込期限 令和元年12月6日 (金)
 (3) 参加費等 研究発表会 2,000円
 情報交換会 4,500円
 現地研修会 4,000円

9. 開催地事務局

農地保全研究部会第40回研究集会・現地研修会運営事務局
 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
 琉球大学農学部 担当: 中村, 木村
 E-mail: s-kimura@agr.u-ryukyu.ac.jp
 TEL: 098-895-8788

10. その他

農地保全研究部会ホームページ (<http://www.jsidro.or.jp/nouchihozen/>) も併せてご確認ください。

会員の皆様へ

会員登録情報の更新のお願い



学会ホームページの「会員専用サイト」で会員登録情報の更新ができます。

会員専用サイトの利用にはログインが必要ですので、パスワードをお持ちでない方は、

会員専用サイトで「WEB利用登録の申込み」をしてください。